

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2372201489
法人名	医療法人 福友会
事業所名	ループホーム 寿荘
訪問調査日	平成20年 2月 7日
評価確定日	平成20年 3月24日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日

平成20年2月7日

【評価実施概要】

事業所番号	2372201489
法人名	医療法人 福友会
事業所名	グループホーム 寿荘
所在地	一宮市大江3丁目10-2 (電 話) 0586-26-0660
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7
訪問調査日	平成20年2月7日

【情報提供票より】 (平成 20年 1月17日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 5人,	常勤換算 6.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 3階建
	3階建ての 1~3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (1月 17日 現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護1	2名	要介護2	2名
要介護3	2名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 76.5 歳	最低 58 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鎌田内科
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家を改修したホームは、重厚な門構えが印象的で、駅に近く、市役所や商店街の中にあり、道を1本中に入って隣が神社と静かで落ち着いた環境にある。3階建ての住居は、居間や居室の窓の間取が大きく光を多く取り入れられる。本人の生活暦や思い、家族の意向に配慮して支援をしている。重度化した場合の指針を作成し、家族等に同意を得て全員で方針を共有し、対応している。災害対策も「防災計画」にのっとり、防災リュック等の準備、年2回の訓練を行う取り組みにより、入居者が安心して穏やかに暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	市町村との関わりで頻繁に足を運んで働きかけている。入居者一人ひとりに合わせた入浴はその時々、状況に応じて対応するように改善している。家族への日常の様子に関する情報提供は、訪問時の対応を含め「ホームたより」などの発行しており、職員の継続的な研修の受講も、参加しやすい環境作りの取り組みが期待される。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価や外部評価を職員が共有し、検討することにより、職員自ら良いホーム作りのための活発な意見交換や体制作りに取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月ごとに行い、町内会長や家族代表、入居者代表等の参加により評価や行事等の報告をしている。市役所も近くにあり、連絡を綿密にしており、出た意見をサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱や苦情窓口の掲示したり、家族の訪問時に何でも言ってもらえる雰囲気作りをしている。出された意見や要望等は、月2回開催される会議において話し合い、反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に参加し、子供会などの祭事には獅子頭などが訪問したり、市の教育講座へ参加をすることにより、交流の機会が増えつつあり、地域に根ざした取り組みがなされている。

2. 評価結果（概要）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着を目指し、連携をとりながら「ゆったり」「のんびり」「楽しく」を理念とし、独自のものを作りながら更なる取り組みをしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域に出かけることを合言葉に、月2回の全体会議の開催や気づきのノートの活用により、理念の共有と外出するなどの実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会長や近隣理容院などと連携し、入居者が地域の中で暮らすことの大切さを説明し、理解を得て行事などへの参加をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価票を共有し、作成することにより、職員が何を意識して介護サービスを提供して行くべきなのかを理解できるように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は、2ヶ月毎に町内会長を含め入居者や家族の代表等の参加により行われており、評価や行事などの報告をして、そこでの意見や要望を取り入れ、サービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所が近くにあり、まめに足を運び、担当者と綿密に連絡を取り、さらにサービスの向上に努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の事情もあり、訪問時や連絡する際に、入居者の近況を報告している。職員の異動については説明していない。	○	手紙や「ホームたより」などを作成することにより、入居者の生活状況をできるだけ定期的に家族に知らせるなどの情報提供の取り組みが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や不満を伝えやすいように、意見箱の設置や苦情窓口をホーム内に掲示しており、運営の反映に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を最低限に抑えるようにしており、異動ある場合は自然に入居者の中に入っていく方法で対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加できるように配慮している。	○	研修の年間計画を立て、職員が研修を受けやす状況を作り、ホームの質の向上に役立てるような取り組みが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一宮市サービス事業者連絡会などに参加し、勉強やネットワーク作りの取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況に応じて一週間を目途に、体験入所や見学などを提案して、除々に馴染めるように家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いや不安を知ること努め、一緒に料理し教えてもらうなど、共に支えあう関係づくりをしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望は、入居者の言葉や日々の行動や表情から汲み取り、家族や関係者から情報を得るようにして本人の視点に立って意見を出し合い取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居前の訪問や面会、家族等への面会などから、聞き取りを十分に行い、ホームでの生活に反映できるようにしている。入居後も本人の発言や日々の行動や表情から希望など推し測り、ケアプランへの盛り込みなどを検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体調の変化などに合わせて、その都度家族等や医療関係者、職員と相談しながら見直しを行っている。変化がない場合でも、本人や家族の意向や状況を確認しながら、月2回の職員会議の中で話し合い検討見直しをしている。見直しの期間は短期で3ヶ月、長期で6ヶ月である。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先は、家族の意向を最優先し、通院時には、情報交換により適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う指針を作成し、家族等に事業所が対応し得るケアについて同意を得て、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いなど、気づきノートや会議などで話し合い特に注意するよう取り組んでいる。記録等は個人のファイルを定位置に保管し範囲慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調の変化や不安感ある時は、居間に置かれたベットにて過ごすことができるよう配慮されている。買い物や散歩、昼寝時間等、一人ひとりの状態や思いや希望に配慮しながら、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や味付け、後片付け等入居者と共に行い、全員が同じテーブルで個々の箸や食器を使用して食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することができ、本人の希望に応じて最低でも週3回の入浴を促している。体調等の状況や入浴を嫌がる入居者には、言葉掛けや対応の工夫により、その都度一人ひとりに合わせた支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや週2回の近くのスーパーへの買出し、喫煙者の煙草自販機での購入支援等、入居者の役割や楽しみを把握し、働きかけを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や希望に応じて、車いす等を利用し散歩や買い物などに出かけている。3月には近所の桜の名所に出かける予定など、季節を感じてもらおう取り組をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関などは、施錠していない。職員の見守りを徹底し、自由な暮らしを支援している。大きな門扉の横の勝手口は施錠していないが、大きな門扉は施錠してある。	○	大きな門扉も鍵を掛けないことで、より地域へ開放する雰囲気につながるので、今後の取り組みが期待される。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	防災リュック等の準備や年2回の防災訓練を行っている。運営推進会議でも話し合い、協力を呼び掛けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録用紙を改善して記入しやすくし、個々の状況に応じ、一人ひとりの嗜好を把握しながら、献立に採り入れ、食事量や水分量など記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖かい日差しも入る間取りの中で、自由に過ごせる居場所を確保している。気になる臭いや空気のだよみもなく、こたつを置き、季節感を感じとれるよう、季節の小物や飾りをするなどの工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族等に協力してもらい、好みの物を持ち込みながらその人らしく過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。